

植物 CO<sub>2</sub>資源化研究拠点ネットワーク (NC-CARP) 産学連携コンソーシアム  
第7回バイオマスリファイナリー研究会 開催案内

NC-CARP 産学連携コンソーシアム会員各位

皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さてこのたび、第7回バイオマスリファイナリー研究会を下記のとおり開催いたしますので、万障お繰り合わせの上、ご参加くださいますようお願いいたします。

日 時	平成 27 年 1 月 30 日 (金) 16:00~18:00 (15:30 受付開始)
場 所	(注意!) 前回と会場が異なり、通常の「理学部 2 号館」で開催します。 東京大学理学部 2 号館 4 階講堂 (東京都文京区本郷 7-3-1)
プログラム	<p>16:00 - 16:40 講演 1 「植物ホルモン作用を利用したバイオマス増産技術の開発」 榊原 均 (理化学研究所・植物資源科学研究センター・グループディレクター)</p> <p>私達は栄養環境に応答した植物成長調節のしくみについて、特に植物ホルモンの果たす役割に着目して研究しています。最近の研究成果から、植物は栄養環境の変化に応答して体内を流れる情報分子の量や質を巧みに変化させ、根、葉、幹の成長をコントロールしていることが分かりつつあります。NC-CARP では、それらの知見を利用してバイオマスを増産させる試みを行っています。今回は植物ホルモン作用を生産性向上に利用する上での可能性と問題点について、私達の取組みも含めて紹介させていただきます。</p> <p>16:40 - 17:20 講演 2 「バイオマスリファイナリーの LCA 評価」 玄地 裕 ((独) 産業技術総合研究所 総務本部人事部人材開発企画室室長 (兼) 安全科学研究部門)</p> <p>バイオマスの利活用は、カーボンニュートラルの考え方にに基づき温室効果ガス排出に関する影響評価が主であったが、近年、社会への影響も考慮した持続可能な利用についての評価が求められている。ここでは、LCA の手法と結果の紹介と共に、持続可能性についての世界的取り組みである GBEP の持続可能性指標についても紹介する。</p> <p>17:20 - 18:00 講演 3 「植物工場を用いた有用物質生産」 後藤 英司 (千葉大学大学院園芸学研究科・教授)</p> <p>植物工場は人工照明、空調および養液栽培を導入する高度な植物生産施設である。現在は高品質な野菜苗・花き苗および葉菜類・果菜類の生産に利用されている。施設の特長として、水、CO<sub>2</sub> ガス、電気を含む物質収支・エネルギー収支が明確である、生育環境ストレスを任意に付与できる、などが挙げられる。近年この特長を生かして、遺伝子組換え植物を用いて医薬品原材料を生産する、薬用植物を用いて二次代謝物質を生産する、などの研究開発が進んでいる。本講演ではこれらの有用物質生産に関する研究動向を紹介する。</p> <p>☆講演終了後、懇親会を開催しますので引き続きご参加ください (会費 1,000 円は当日会場にて承ります)。</p>

会場案内



理学部 2号館 (4階講堂)

第7回バイオマスリファイナリー研究会 参加申込書

回答先：NC-CARP 産学連携コンソーシアム事務局 宛 (1月23日(金) 締切)

E-mail : takama.junko@mail.u-tokyo.ac.jp (または Fax : 03-5841-8777)

団体名		懇親会 出欠
1	氏名	
	所属・役職	
	E-mail	
2	氏名	
	所属・役職	
	E-mail	
3	氏名	
	所属・役職	
	E-mail	

参加申込：1月23日(金)までに、上記内容(様式自由)をメールまたはFaxにて事務局宛にお送りください。

【連絡先】NC-CARP 産学連携コンソーシアム事務局 (担当 高間)

E-mail : takama.junko@mail.u-tokyo.ac.jp Tel : 03-5841-1579 Fax : 03-5841-8777

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1 東京大学理学系研究科等経理課 外部資金チーム